学苑・環境デザイン学科紀要　No. 897　56〜61（2015・7）

〔デザインノート〕

服飾デザインマネジメントコース「ファッションショー」報告

石川　亜沙美・石垣　理子・下村　久美子

1. はじめに

環境デザイン学科服飾デザインマネジメントコースでは，毎年11月に開催される本学の学園祭【秋桜祭】において，ファッションショーを行っている。（図1）ヘアメイクは2008年から専門学校とのコラボレーションにて実施し，2010年からは環境デザイン学科の他コースも含めた「DP総合演習」のプロジェクトと連携しており，現在スタッフは150名以上である。この大規模なグループワークは，学生が1年間かけて企画，衣装制作，会場演出などの様々な活動を行うアクティブラーニングである。本報ではファッションショーの概要と開催に向けた1年間のプロジェクトの流れについて報告する。

2. ファッションショーの位置づけ・ねらい

本学の学園祭でファッションショーを開催することになったきっかけは，表1に示すように11年前の2004年に遡る。当時3年生だった服飾を学ぶ学生のうち数名が，成果を発表する機会としてファッションショーを行いたいと自主的に立ち上がった。当時は大教室を会場として，仲間達に協力依頼し他の教室から運び入れた教壇で舞台を組み上げ，音響や照明機材も自分達で手配して行った。こうして学生が主体となり1つのファッションショーをゼロの状態から作り上げた。その様子を見て「自分たちもチャレンジしてみたい」という下級生達の声が上がり，自信が持てない部分には初回を経験した上級生達がアドバイスするなど，学年間の交流が自然に生まれた。その結果，翌年にはシーン数を増やしパワーアップした2回目のショーを無事実現させ，一回り成長した学生達の満足げな顔がそこにあった。主体的になった学生が辿り着いた成果を目の当たりにした教員間では，「服飾系学生にとって，基礎的な専門科目で培った知識とスキルを駆使して実現させるファッションショーは総合的な演習であり，それまであまり実現出来ていなかった他学年との交流の中での貴重な学びの場となるであろう」と話し合った。こうして，ファッションショーは服飾デザインマネジメントコース（略称: 服飾DMコース，当時は造形デザインコース）のカリキュラムに正式に含まれることになったのである。

現在では，服飾DMコースの学生は必修科目となっている「服飾DM総合演習」の授業の発表の場としてファッションショーを行い，企画から演出まで総合的に手掛けている。この科目のねらいは，ファッションショーの企画，運営を通して，デザイン，マネジメント，プレゼンテーション能力を養うこととし，ショーの企画を他学年，他コースなどの多くのメンバーとのコミュニケーションを持ちながら実現出来ることも大事な目標としている。

また，卒業制作を希望する学生は3年次のみならず4年次に「造形デザイン演習Ⅲ」の科目として，数シーンを担当する。1年経験を積んでいることにより，前年度の反省を生かしてクオリティの高いものに仕上がっており，3年

表 1. ファッションショーの足跡

年号	開演（回）	テーマ	特記事項
2004	1	Closet	3 年生有志 10 数名が企画し，大教室にてファッションショーを行った
2005	2	衣心伝心	
2006	3	うつろひ	ウォーキング指導開始
2007	4	no-border	【服飾 DM 総合演習】として服飾 DM コースの必修科目となる
2008	5	GRACE	フロムハンドメイクアップアカデミーとコラボ開始
2009	6	Mirror	新体育館で公演
2010	7	MORE	文部科学省大学教育推進プログラム「デザインする力」，DP 総合演習と連携をとる。これ以降，旧体育館で公演
2011	8	色　-SHIKI-	
2012	9	誕生	
2013	10	自由	
2014	11	女	【ボストン美術館　華麗なるジャポニスム展】とコラボのファッションショー開催
2015	12	Voice	

生も刺激を受けながらファッションショーの計画を進めることが出来る。

「DP 総合演習」では，他コースの学生が専攻分野のスキルを駆使し，ファッションショー開催に向けてポスターやパンフレットのデザイン制作，サイン計画や会場演出，記録用の DVD 制作などを担当し，服飾 DM コースの学生と連携してプロデュース活動を行っている。

3. プロジェクト運営のスケジュール

服飾 DM コースの 2 年生が週 1 回 1 コマの授業時間を使用し，学園祭の 1 年前から企画立案を行い，学生主体で PDCA サイクルに基づいてグループワークを進めていく。プロジェクトの主な流れは表 2 の通りである。

① **執行部選出・各係決め**: 自主性に任せて決定する。執行部は 3〜4 名で構成している。

② **テーマ・各シーン決め**: テーマに沿った担当シーンのコンセプト設定が出来ること，ショーとしてのまとまりを常に意識したシーンの構成が出来ることがねらいである。執行部を中心に全体で意見を出し合い，ディ

表 2. 服飾 DM 総合演習　プロジェクトの流れ

時期	内　　容
10 月	①　執行部選出・各係決め ②　テーマ・各シーン決め
11 月	秋桜祭では当日のスタッフとして参加（見学），外部講師による講評を聞く
3 月	③　デザイン画決定・モデル選定
4 月	④　1/5 サイズでのイメージ検討
6 月	⑤　パターン制作　⑥　素材や生地加工の検討
7 月 夏休み	⑦　トワルチェック（試着・補正） ⑧　本縫い（試着・補正） ⑨　衣装のブラッシュアップ・シーン内調整 ⑩　演出検討（音響・映像・照明プランおよびウォーキングプラン）
10 月	⑪　ヘアメイク等検討
11 月	⑫　各係の任務遂行 ⑬　会場準備および当日の運営・片付け ⑭　振り返り

スカッションをした後，グループに分かれる。1グループ6〜7名で構成し，1人1体以上制作することを課している。グループの決め方は学生内で調整する。

③ **デザイン画決定・モデル選定**: シーンのコンセプトを的確に表現する衣服のデザインが出来る様にグループごとに検討する。同時にシーンのイメージに合うモデルを選定し，採寸を行う。(図2)

④ **1/5サイズでのイメージ検討**: デザイン画から立体におこすにはどの様な素材やパターンで制作するか検討し，シーン内での統一を計る。(図3)

⑤ **パターン制作**: デザインを立体化するためのパターンを展開出来ることがねらいである。

⑥ **素材や生地加工の検討**: デザインを生かす的確な素材選びが重要である。また，生地に合った糸選びや生地加工，縫製条件等も検討する。

⑦ **トワルチェック（試着・補正）**: モデルに着用させ，イメージ通りに構成出来ているかを確認する。

⑧ **本縫い（試着・補正）**: トワルチェック後，決定した素材を用いて実際に縫製し，衣装を完成させる。

⑨ **衣装のブラッシュアップ・シーン内調整**: ウォーキング練習の際に衣装を着用し，シーン内で統一感が出ているかを確認し，ブラッシュアップする。

⑩ **演出検討（音響・映像・照明プランおよびウォーキングプラン）**: シーンのコンセプトを的確に表現する演出が出来るように係を中心にシーンごとに検討する。ウォーキングについては，外部講師が指導し，さらに演出を深める。(図4)

⑪ **ヘアメイク等検討**: シーンのコンセプトと衣装のデザインに合うヘアメイクについて，スタッフ間で充分なコミュニケーションを図る。

⑫ **各係の任務遂行**: 一年を通してショースタッフの一員として責任を持って各係（シーン長・モデル係・音響・映像・照明・会計）の分担任務を遂行し，企画運営の円滑を図る。

⑬ **会場準備および当日の運営・片付け**: 役割分担はすべて学生が計画し，会場設営から片付けまで，スタッフとしての責任を持って取り組む。

⑭ **振り返り**: 下記の3項目から個人およびシーン，係ごとに評価と改善すべき点を検討し，翌年に引き継ぐ。

・来場者へのアンケート集計: 当日パンフレットとともに配布したアンケートを集計し，どのような評価を得たか確認する。

・外部講師であるデザイナーによる講評: シーンのテーマに合った素材の検討やデザインおよび始末の工夫等，デザイナーの視点からのコメントをいただき，下級生はそれらを参考に次年度のショーに向けて検討を始める。(図5)

・ポートフォリオ: 半期ごとにポートフォリオで個人のまとめを行い，作品およびグループ活動について振り返りを行う。

4. 2014 年度作品（コンセプトはパンフレットから抜粋）

第 11 回目である昨年度のテーマは「女」。様々な視点から「女」について検討し，8 シーンで構成した。学園祭 2 日間，計 4 回の来場動員数はおよそ 2000 名と盛況のうちに幕を閉じた。シーンごとに概要を記す。

Scene 1. Charm-Charmer（図 6）

（コンセプト） 女の子のかわいいが沢山詰まった宝箱の中。幼い頃にだれでも一度はあこがれた，夢見る世界。
（デザイン） 花，四葉のクローバー，キャンディのラッピング等をイメージした 6 体のカラフルでポップな衣装を制作し，女の子の憧れるものを表現した。

Scene 2. 白黒ーひょうりー（図 7）

（コンセプト） 女の子は，キラキラしていて，お洒落をしていて，可愛い。しかしその裏には，様々な感情や不安を抱えている。その様な女の裏の部分や秘密の顔を表現する。
（デザイン） 正面と背面で色やテクスチャーが変わり，可愛らしさと裏腹に不安な要素を表現した。

Scene 3. 結ーMUSUBIー（図 8）

（コンセプト） 生活の中には結ぶという行為がしばしば見られる。ここでは身に纏う“結び”として，帯に着目した。女性の和服一式の中で帯の存在は大きい。“結び”の新しい可能性を見出したい。
（デザイン） 帯の結び方を検討し，結び方に合う文様を染色した。紺色のベースに帯が栄えるように，帯はピンク・水色・オレンジとポップな色を用いた。

Scene 4. Kimono（図 9）

（コンセプト） 昔から女性は色と柄遊びが得意だった。現代でもその色と柄は通用するのか。本来の着物から飛び出して，もっと自由に，もっとお洒落に。
（デザイン） 6 色のビンテージの振袖と単色の生地を組み合わせ，プリーツ加工とともにデザインを現代風にアレンジして表現した。

Scene 5.　魅惑（図 10）
（コンセプト）　女性の魅力的な色気と可愛らしさの中に潜む影。それは心の中に秘めた渦巻く感情。私達はいま，その内面を服に落とし込む。
（デザイン）　ピンクや紫のサテンやシフォン，黒いレースを重ねて大胆なデザインにし，魅惑の世界を表現した。

Scene 6.　やまとなでしこ（図 11）
（コンセプト）“やまとなでしこ”とは，清楚でつつましやかな日本人女性の美しさに対する褒め言葉であり，同時に日本人女性の理想像として捉えられる。私達は，愛らしさと，しとやかで品のある美しさを兼ね備えた，日本人女性ならではの魅力を表現する。
（デザイン）　白とスモーキーグリーンの配色で，デザインには細かいピンタックやドレープを用いて愛らしさとしとやかさを表現するべく，7 体を制作した。

Scene 7.　盛ーkazaruー（図 12）
（コンセプト）　盛りたてるスタイルが女性に多く見られるのは何故だろうか？　この並はずれた自己主張に隠された“オンナ”とは…。
（デザイン）　白ベースのワンピースやパンツにカラフルな花のモチーフを盛り，強い自己主張を表現した。

Scene 8.　女であること。誇り。（図 13）
（コンセプト）　女性であることを誇りに思う。「女性らしさ」「誇り」という花言葉を持つ椿をモチーフに，凜とした姿，繊細で清く，美しい女の世界を表現する。
（デザイン）　椿のモチーフとフリルやラッフルをふんだんに用いてしなやかさを表し，裾にはスパンコールを施し，凜とした素材感でデザインをまとめた。

さらに 2014 年 7 月には初めて学外でファッションショーを行うことになった。世田谷美術館で開催した「ボストン美術館　華麗なるジャポニスム展」とのコラボレーション企画として，「ジャポニスム×ファッション」をテーマに 4 年生が中心となって進めた。これは通常とは異なる年齢層の来場者に見てもらえる良い機会となった。会場の形

や観客との距離が異なるため，これまで学内で行ってきたファッションショー形式という枠を外れてウォーキングプラン等の演出を計画したことは，難儀した様子だったが，立ち見客も出るほどの満席御礼となった。（図 14）

この公演後，秋桜祭でのショーのテーマである「女」に向けて，ブラッシュアップをしたものを披露した。（Scene 3. 4. 6. 7. が該当）

5. まとめ　今後の課題および展望

1 年間かけて作り上げるプロジェクトでは，公演が終了するまでに様々な人間ドラマが生まれる。この授業に取り組む前の課題では個別に制作するケースが多く，濃密なグループワークは初めてに等しい。デザイン画を描くのが得意な者，縫製が得意な者，色合わせや表現手法が得意な者，制作は苦手だが人とのコミュニケーションが上手な者，と多種多様で，その個性がぶつかり合うこともあるが，最終的には絆が深まり，一回りも二回りも成長した彼女達と出会うことが出来る。

参加した学生は，大学生生活での一大イベントとなり，企画運営のみならず，普段は関わりの少ない人とも連携をとる必要があり，問題解決能力やチームワーク，プレゼンテーション能力などコミュニケーション方法について学ぶことが多く，社会に出た後も一つのスキルとして役に立っていると話す卒業生もいる。

今後の課題としては，コンセプト立案から衣装のデザインまで一貫して考える力が，あと一歩のように感じる。伝えたいことを表現する難しさに悩み，デザイン画から立体に起こすまでに時間がかかってしまう傾向がある。ファッションショーを通して学生ならではの意見を発信することを目指し，コンセプトに沿ってデザインを単純化させ，ストレートに伝えられるよう，余計なデザインをそぎ落とすことの出来る明快な表現力を身につけさせたい。また，衣装の縫製テクニックや素材検討，視覚・聴覚による演出効果の探究，本校でファッションショーを行うことの有効性を意識したテーマを深く検討し，さらに外部にも発信出来るように指導していきたい。

6. 2014 年度ファッションショー参加学生・協力者（図 15）

■参加学生（94 名）

- 昭和女子大学生活科学部環境デザイン学科服飾デザインマネジメントコース 2014 年度 3 年生，4 年生
- 昭和女子大学生活科学部環境デザイン学科 2014 年度 DP 総合演習履修者
- 昭和女子大学生活科学部環境デザイン学科服飾デザインマネジメントコース 2014 年度 2 年生

■協力者（76 名）

- 各シーンモデルの皆さん（他コース，他学科，学外協力者含む）
- フロムハンドメイクアップアカデミーの皆さん

（いしかわ　あさみ　　環境デザイン学科）（いしがき　みちこ　　環境デザイン学科）（しもむら　くみこ　　環境デザイン学科）